

聖化

Japan Holiness Association

[発行] 日本聖化協力会

2016.9.18
No.60



愛のうちに変貌される生涯へ

日本基督教団 東京聖書学校 吉川教会 牧師 深谷春男

昨年の10月12、13日、「聖化協力会30周年記念大会」がインマヌエル中目黒教会を会場に開催されました。アメリカからジョン・オズワルト先生をお招きして、大変豊かな集会を持ちました。ジョン・オズワルト先生は、なんと30年前に第一回の聖化大会の講師でもありました。多くの祈りが積み重ね、主の聖き恵みを慕う牧師先生方や神学生、教会の愛兄弟が期待をもって詰めかけ、最初の聖会から500人を超える方々が日本全国から参加され、素晴らしい恵みであふれました。

講師のオズワルト先生は、初めから笑顔が絶えず、その恵まれた御人格がしのばれました。アズベリー神学校はじめいくつかの神学校で旧約聖書の教鞭をとられ、イザヤ書の注解を書かれ、旧約学者として尊敬を受け、アズベリー神学校の学長をされたという輝くような経歴。何をお語りになるか、期待をもって耳を傾けました。

先生の語られた主題は二つでした。一つは「変貌される生涯」、もう一つは「全き愛」でした。先生の語られたメッセージを要約すれば、以下のようでした。

「世界は大きく揺れ動き、傷ついており、真実な愛に満ちたクリスチャンの出現を待っている。パ

ウロはローマ信徒への手紙を通してわたしたちに、主イエスの十字架の贖いと聖霊の働きによる圧倒的な勝利の道を語っている。三章では贖いの業について、六章からは聖化の恵みが語られ、一二章では「変貌される生涯」が語られる。どのように変貌するのか。聖霊の力による「全き愛」へと変貌するのだ。ホーリネスとは愛の事。自分の力で変わるのではない。神様が、聖霊なる神様が臨まれるのだ。「メタモルフオーサー（霊的変容）」と「アガペー（神の愛）」。主イエスの十字架の贖いの業を信仰をもって受け入れ、聖霊に満たされたクリスチャンの出現。霊的で、聖書信仰に立ち、神の愛で満ちた、主イエスの姿にまで変えられるクリスチャンの出現を世界は待っている。」

わたしは第二夜の聖会の司会をしながら、この「聖化協力会30周年記念大会」のメッセージは、わたし自身に、現代の教会に主が切に語っておられるメッセージであると感じました。いよいよ御霊に満たされ、愛のうちに変貌される生涯を求めましょう。

今年、ジョージ・アン・ライオン先生をお迎えして、第31回目の聖化大会を迎えます。主の臨在に満ちた恵みの時を期待します！

もくじ

- 巻頭言メッセージ…………… p.1
- 2017年の講師レクチャー博士紹介 …… p.6
- 創立30周年全国大会講演その2 …… p.2-3
- ライオン博士紹介、書籍の紹介 …… p.7
- 今ここできよめの信仰に立つ …… p.4-5
- 今年の聖化大会日程、編集後記 …… p.8

日本聖化協力会創立30周年記念全国大会 講演

日本における聖化運動の歴史

第2回 河邊禎吉、中田重治、バックストンの活躍

日本イエス・キリスト教団 香登教会牧師 工藤弘雄

河邊貞吉らフリー・メソジストの流れ
河邊とバックストンの親交と協力は生涯続きました。1895年、自由メソジスト教会の日本伝道の責任者と任命された河邊は、淡路島で開拓伝道を行いました。1903年、大阪に進出、日本橋教会を起し、1905年、大阪伝道学館（後の自由メソジスト神学校、大阪基督教短期大学）を設立。当時日本橋教会の礼拝出席者数は関西一、草創期にはバックストンの弟子堀内文一を招き、教育、修養を進めました。堅実な教会形成とともに有馬修養会（現関西聖会）、香登修養会などに責任と重荷を持ち、諸教会の巡回奉仕など超教派的聖化運動に尽力しました。東の中田、西の河邊は好一对の活動家でした。日本自由メソジスト教会は、1940年、日本ナザレン教会、日本同盟基督教協会（スカンジナビア・アライアンス・ミッション）とともに日本基督教団成立時、「日本聖化基督教団」を結成、第八部として加入しました。戦後、1952年、同教団を離れ、日本自由メソジスト教団を再建、1984年アルメニアン・メソジスト主義に立つ諸教会は、従来の教団

から分かれ日本フリーメソジスト教団を設立しました。その教義的立場はジョン・ウェスレーが主張した全き聖化についての聖書の教えであったのです。
中田重治らのホーリネスの流れ
中田重治はシカゴのムーディ聖書学院在学中、生涯の協力者C・カウマン夫妻と出会いました。1897年、インド、タミールの伝道者、V・D・ダヴィッドの集会で明確な聖潔を体験。1899年「焰の舌」（後、聖潔の友）を創刊。1901年、カウマン夫妻とともに、東京神田神保町に聖書学院と伝道所を兼ねた「中央福音伝道館」を設立。数カ月後バックストンの推薦を得た笹尾は、聖書教師として淡路から赴任。1904年、聖書学院は淀橋柏木（3000坪）に移転、修養生に米田豊、野辺地天馬、山崎亭吉、車田秋次らがいました。1905年、東洋宣教会設立。中田（伝道部門責任）、笹尾（聖書学院院长）、カウマン夫妻、キルボルン夫妻（いずれもアメリカとの交渉、会計）が責任を分担。新役員制度では、中田総理、笹尾副総理、カウマン、キルボルン会計、秋山は巡回伝

道、福音伝道館は全国16箇所、韓国にも開設しました。
既成のキリスト教界も開教50年を過ぎ、大正デモクラシーの風潮の中で「全国協同伝道」（1914～16年、3,306集会、聴衆618,647名、志道者21,152名）を展開、教勢は好調の時期でした。
1917年、東洋宣教会ホーリネス教会が新たに組織され、初代監督に中田、「新生、聖化、神癒、再臨」の四重の福音をもって日本を席卷。1918年、内村鑑三、木村清松らと再臨運動を展開。1919年、英国ケズリック聖会講師インワード来日、天からの火は投じられ、秋山、柘植、小原十三司らの信州飯田は風越山での祈りが口火となり、ホーリネス教会に「大正のリバイバル」が起き、1920年、東京聖書学院で「日本全国リバイバル大会」が開かれ、東西の聖潔派が大結集、1923年には中田羽後による『リバイバル聖歌』が出版されました。
昭和に入り、1930年、ホーリネス陣営に熱烈な再臨待望、準備による「昭和のリバイバル」が起き、教勢は驚異的な成長を遂げました。日本ホ



昨年10月に開催された日本聖化協力会創立30周年記念全国大会、午後のパネル・ディスカッションにおいて、お二人の先生に講演をしていただきました。松沢力男先生の「日本聖化協力会のビジョン」、そして工藤弘雄先生の「日本における聖化運動の歴史」です。

講演に際して工藤先生はたいへん詳細な行き届いた資料をレジュメとして準備してくださいました。そこで、改めて日本での聖化運動の歴史をまとめていただくことにしました。3回に分けて連載いたします。今回は、キリスト教伝来から松江バンドの形成まで。第二回は、河邊貞吉、中田重治から日本伝道隊まで。第三回は、戦前、戦後のホーリネス運動です。

リネス教会は昭和初期、1927年、教会数165、信徒数6,374、教役者206。5年後の1932年、教会数439、信徒数19,523、教役者428。実に3倍の驚異的增加。日本全国、満州、朝鮮、樺太、シシマ、ブラジル、セレスほかに伝道展開。しかし、行き過ぎた再臨観、民族観などで1933年発展の絶頂で分裂。1936年、中田は「きよめ教会」の終身監督となり、1939年、柏木にて波乱万丈の生涯を終えました。笹尾は聖書学院草創期以来、中田・笹尾のコンビでホーリネス教会の強固な基礎は築きましたが、晩年、主の再臨に備え、花嫁なる教会の装いを整えるため、巡回伝道に専念、1914年、47歳の若さで召されています。

バックストン、ウイルクスらの日本伝道隊の流れ

バックストンは子女教育のため帰英、山陰伝道は約12年。1903年、英国ケズィック聖会の最中、ウイルクスらと共に「日本伝道隊」(Japan Evangelistic Band)を結成。バックストン総理、ウイルクス現地主管。

日本人隊員に竹田、三谷、御牧、堀内ら。主の臨在の輝きの中で全く肉に頼らず、「わが霊によるなり」(ゼカリヤ四・6)の礼拝と奉仕が進められました。隊の大目標は「全日本にキリストの救いを」、「全日本キリスト者に『全き救い』を」、「聖霊に満たされた神のしもべの育成を」でした。1905年、神戸を拠点に働きが展開されました。

働きの第一は、歓楽街伝道。神戸基督教伝道館開設(1905年、多聞通り)後、湊川新開地に移され、毎夜の伝道会。ウイルクスと竹田の信念は二つ、即座の救いと回心者から働き人が起こされることでした。樋口勝吉、植木不知人、安藤仲市ら多くの伝道者が起こされました。当時、回心者は長老教会、バプテスト教会、自由メソヂスト教会などへ送られました。

第二の働きは聖書学校。1907年、神戸の平野で開校。校長に竹田、ウイルクスはこれを助け、1914年から4年間、バックストンも定住して奉仕。この第二世代のバックストンの弟子に樋口勝吉、澤村五郎、植木不知人、小島伊助、佐藤邦之助、野畑新兵衛、森俊治、舟喜麟一らがいました。

第三の働きは、諸教会への教師の派遣。日本伝道隊は教会を作らない憲法の下、隊員は徹底して外への救霊、伝道、諸教会での奉仕。派遣教会はメソヂスト、組合、聖公会、同盟、自由メソヂスト、福音教会など、まさに諸教会に浸透する聖化運動を展開しました。第四の働きは、聖会開催。「全日本に全き救いを」の目標実践のため、有馬修養会、香登修養会をはじめ各地で聖会の重荷を分担したのです。

第五の働きは文書伝道。御牧主筆による超教派の霊的機関誌『霊の糧』、ついで『福音新聞』、戦後は小島伊助主筆『福音』が500号まで及びました。1920年から24年にかけて、日本伝道隊の働きを拡大する4つの出来事が連続して起こりました。1920年、J・B・ソーントンが日本伝道隊から独立。兵庫、京都山間部、日本海側一帯に福音伝道を展開。1922年、丹波柏原に「日本自立聖書義塾」を開設。学びと労働(ピーナツバター製造)と伝道をもって働きを推進。初期の学生には山白令一、藤村勇、木田愛信、藤田昌直、後期には岸本頌三、鎌野良作、中島彰がそこで救われ、献身しました。

「多実樹兄弟、きよめられたのはいつ？」

「えっ、あっ、はい。えーっと、大学の1、一年生の時です……。」

神学院に入学したばかりの頃、先輩からの質問に対する私の受け答えでした。答えながら、内心「あっ、バレてしまったかも」と感じるような対応になってしまったのですが、案の定、先輩はそこで話を切ってくれました。ほっとしたのは言うまでもないのですが、とても苦い経験として鮮明に覚えています。そのとき、私は神学生でありながら、きよめられた確信は全くなかったのです。

私のきよめの経験はそのように、表向き大学一年生の時としていましたが、実際はそれ以前に何度もきよめの信仰に立っていて、その都度、以前のは違っていたというようにして、改めて経験し直す(?)ことを繰り返していました。

そのようなことになってしまった原因は、「きよめ」に対する認識不足から来る誤解でした。高校生になった私は、聖別会、聖会などに積極的に出席するようになりました。すると「きよめられなさい」というメッセージや、「私はきよめられました」という証しを耳にしたとき、きよめについてよく知らない私は、「恵まれなさい」「恵まれました」ということの別の表現だろうという認識を持ってしまったので、クリスチャンらしからぬ事をしたことを悔い改め、その度に「私はきよめられました」との証しを繰り返してしまったのです。そうして大学生になった時、きよめに対する多少の理解が進み、新生に次ぐ第二の転機として、今まで以上に悔い改めができた今

きよめの証し

今こそきよめの信仰に立つ



イムマヌエル綜合伝道団 岡山教会 牧師

渡辺 多実樹

回のが本物だとして「きよめ」の信仰に立ったのでした。その後、そんなあやふやな状態にも関わらず、神様の召命をいただいたのでそれに従い、神学院へと入学をいたしました。そこでの学びは非常に有意義なものでしたが、「聖化論」等のきよめに関する学びを通して、いかに自分の理解がお粗末なものであったかを痛感しました。そして、知識（聖書のみことば）と自分の経験とがあまりにも懸け離れている現実を突きつけられたのです。そうなるとう然出てきたのは、「今の自分はきよめられていないのではないか」という疑問です。学べば学ぶほどその思いは強くなっていきました。そんな折、事もあるうに神学院教会の祈禱会で、「きよめ」の証しを命じられてしまったのです。「できません」と断れば良かったのですが、神学生としての見栄が働き、模範解答的な証しをしようとしてしまったあまり、確信もなく経験も伴わっていないわけですから、空を打つような情けない証しをしてしまったのです。敗北感しか残りませんでした。それ以降、いよいよ疑問は強くなり、それに反比例するかのように真剣に「聖化」を求めるようになりました。必死に祈りました。必死に自分の汚れを悔い改めました。必死に明け渡しました。しかし、どんなに求めても一向に「聖化」の確信には至らず、どんどん自分の醜さに打ちのめされ、とうとう、「全き聖化の恵みは本当にあるのだろうか」という不信感さえ持つようになってしまったのです。

牧師の家庭に生まれ育った私は、小学校三年生の時に救われましたが、中学一年生の時に自分の救いの経験に

疑問を持つようになりました。それでも中学三年生になって、救いの確信に立つことができました。伝道者への召命は高校二年生の時でしたが、浪人をしてしまった時に自分の召命の経験が揺らぎ、浪人二年目になって、ようやく召命の確信をいただきました。いつでも神様は、真剣な求めの祈りに対して応え続けてくださいました。しかし、きよめに関しては違いました。「救い」も「召命」も自分の経験に対しての疑問でしたが、「きよめ」は神様の御業に対する疑問でもあったので、なかなか応えられず、本当に苦しい日々になってしまいました。

ところが、やはり神様はおられたのです。神学生二年生の秋、関東聖化大会の前夜、このままの状態ではとても神学生を続けることはできないと思ひ、神様に対し「もし、聖化の恵みがないのなら、それをはっきりと分かるかたちで示してください。もし、聖化の恵みがあるのなら、私に対してはっきりと現してください」と祈り、強い意志を持って集會に臨んだところ、まさにそんな悩みを持つ私へのメッセージがなされ、「過去や未来ではない。大切なのは今、きよめの信仰に立つことである」と語られたのです。暗雲立ちこめる私の心に、明るい一筋の光が射し込んできました。何度も何度も頷きながら、早く前に出て祈りたいという衝動さえ湧いてくるほどでした。説教後、招きに応じて前に出て行きましたが、生まれて初めて、感謝の祈りだけに終始した『恵みの座』となったのです。その時、「きよめ」は確かにあるとの確信をいただき、喜びに満たされました。

そして神学院にもどったその夜のことです。消灯後、



祈禱室にある畳一畳の真っ暗な祈禱ブースで改めて感謝の祈りをささげていた時、「わたしを信じなさい。自身自身ではなく、わたしを見なさい」と神様がはっきりと語ってくださり、その時やと「きよめの信仰」が何なのか分かったのです。単純に「神様、あなたを信じます」と答えた時の光景は忘れることはできません。目を開けても何も見えない真っ暗な祈禱ブースの中で、手を伸ばせば神様に触ってしまうかもしれない圧倒的な神の臨在感。あまりの喜びに思わず「このまま天国に連れて行ってください」と祈ってしまいそうになるぐらいの幸福感を味わったからです。それ以降、今に至るまで何度も試みられましたが、一度もこの確信は揺らいだことはありません。

私には、「きよめの教理」の正しい理解が必要でした。「罪の性質」の徹底的な自覚も必要でした。汚れた思い・行動に対する心の底からの「悔い改め」も必要でした。「すべてを献げきる」決心も必要でした。そして、それらすべてをした上で本当の「信仰」が必要でした。

「人の心の中を知っておられる神は、私たちに与えられたと同じように異邦人にも聖霊を与えて、彼らのためにあかしをし、私たちと彼らとに何の差別もつけず、彼らの心を信仰によってきよめてくださったのです。」

(使徒の働き一五・8、9)

未だに未熟で愚かで失敗ばかりの人間ですので、自分を見れば絶望しかありません。しかし、神様はそんな私をきよめてくださったのです。ですから、「きよめ」は福音なのです。

直次郎 かえりうち (2)



©富無尽蔵

日本聖化協会

創立30周年記念聖化大会を超え、新たなステージへ……

聖化運動の深化をめざして

全国10の聖化交友会で、聖化の宣証のためにさまざまな取り組みがなされております。そうした工夫によって聖化の恵みを分かち合う仲間が、さらに加えられることを願っております。

*

関東聖化交友会（KJHA）では、この秋の聖化大会の中で、初めての試みですが「KJHA会員懇談会」を計画しております。今年2月には、普段の活動で会員の皆さまと実行委員会とのコミュニケーションが欠けがちであったことへの反省として、評議員会に会員有志の陪席をお願いいたしました。さっそく数名の方がご出席くださり、大きな励ましをいただきました。この秋の「懇談会」は、それをさらに

発展させ、会員の皆さまと実行委員の一層のコミュニケーションを目指しております。

集会の内容としては、夕食を共にしながらの懇談（特にKJHAの運営についての要望など）を予定しております。お招きしているのは、KJHAに登録している個人の会員の皆さま、またKJHAに登録している教会から代表者2名です。参加費はありませんが、各自夕食のお弁当をご持参頂くことになっていきます。こうした取り組みを通して、聖化の恵みが一人ひとりに深く、広く届くことを願っております。各地の聖化交友会でこうした新しい取り組みがなされましたら、是非情報をお寄せください。

2017年秋の聖化大会 講師ご紹介

ダイアン・カニングム・レクラーク博士

ダイアン・カニングム・レクラーク博士（Dr. Diane Cunningham Leclerc）は、米国ノースウェスト・ナザレン大学で歴史神学の教授をされています。ホーリネス運動やフィーバ・パーマーの研究者として著名な器です。英語、ポルトガル語、スペイン語、フランス語に堪能だそうです。2012年の聖化大会にお迎えしたフロイド・カニングム博士のお姉さまにあたられます。



2012年 聖化大会講演集

ホーリネスを生きる 神の民

フロイド・カニングム著

定価(本体1300円+税)





講師紹介

ジョ・アン・ライアン博士プロフィール

Rev. Dr. Jo Anne Lyon

2016年秋の聖化大会に講師としてお迎えする



ジョ・アン・ライアン博士は、カウンセリングの分野で修士号を取得、歴史神学を学び、5つの大学から名誉博士号を授与されました。ウエスレアン教会で30年間牧会し、その傍ら、インディアナ・ウエスレアン大学やアズベリー神学校で「教会と社会」のクラスで教鞭を取られました。援助団体「World Hope」を創立し、30カ国に及ぶ救済活動と開発支援、社会的矛盾との戦いを指導されました。2008年、北米ウエスレアン教団初の女性総理に選出され、2016年6月に任期が終了するまで、その重責を担われました。

ご主人であり牧師であるウエイン・ライアン師とともに、インディアナポリスに住み、4人のお子さんと10人のお孫さんに恵まれています。

JHA 創立 30 周年を記念する画期的な刊行事業！

聖化の説教 全3巻完結 (旧約編2巻、新約編1巻)

日本聖化協会の先生方による説教集 聖書全体を 64 の説教で綴る

2013年から2年をかけ旧約聖書の聖化の説教を2巻に収めてお届けしました。旧約聖書の巻数と同じ39の説教を掲載しています。昨年、JHA創立30周年全国大会の記念として新約編を刊行しました。新約聖書の巻数27にはなりませんでしたが、25の説教に聖化の恵みを満載してお届けいたしました。

執筆していただく先生方には、極力普段の礼拝説教で語るような語り口で書いていただきました。身構えずにありのまま、みことばの前に座して豊かな恵みと聖霊のお取り扱いを受けたいという願いからです。

一度にこれだけたくさん聖書のみことばに触れ、聖化の説教を味わうことができるのは、すばらしい特権ですし、ぜひたくさんひとときです。ぜひ、熟読・味読してください。

『聖化の説教』旧約編Ⅰ、旧約編Ⅱ、新約編 ぜひ全巻をお揃えください

旧約編Ⅰ

定価 1,500 円＋税

創世記からエステル記まで、聖書の英雄的な行動や惨めな失敗、信仰の輝きが、21の説教に収められています。



旧約編Ⅱ

定価 1,500 円＋税

ヨブ記からマラキ書まで、知恵文学、詩歌、預言者たちによって語り継がれた聖化の恵みが18の説教に収められました。



新約編

定価 1,800 円＋税

新約聖書の各巻から25の説教で聖化の恵みを読むことができます。親しんでいるみことばに新しい光が与えられます。



2016年に開催される聖化大会

| 大会名 | 期日 | 講師 | 会場 |
|---------------|----------|---------|-------------|
| 宮城 第28回仙台聖化大会 | 9/19 | 古波津保秀師 | 日基 仙台青葉荘教会 |
| 山形 第21回山形聖化大会 | 9/22 | 田中時雄師 | 兄弟団 米沢教会 |
| 関東 第31回関東聖化大会 | 10/16 | 本間尊広師 | 東京FM 小金井教会 |
| 〃 | 10/17~18 | J.ライアン師 | OCCチャペル |
| 東海 第29回東海聖化大会 | 10/20 | J.ライアン師 | I GM 名古屋教会 |
| 〃 | 10/21 | 小林重昭師 | 日本イエス 名古屋教会 |
| 大阪 第71回Wに学ぶ会 | 10/21 | J.ライアン師 | ナザレン大阪桃谷教会 |
| 岡山 第8回備前聖化大会 | 10/23 | J.ライアン師 | 日本イエス 香登教会 |
| 九州 第27回九州聖化大会 | 10/25 | J.ライアン師 | 兄弟団 福岡教会 |

* 聖化大会についての詳細は、日本聖化協会のホームページ、Facebook、Twitter をご覧ください。各地域の聖化交友会のご案内が掲載されています。http://jha.christ.gr.jp/

続々と、電子書籍化を進めます！

電子書籍化第一弾、「エマオの道で」を販売中です。昨年刊行された「聖化の説教 旧約編I」「聖化の説教 旧約編II」「聖化の説教 新約編」もすでに電子書籍として販売しています。Amazon Kindle ストアで検索してください。

お近くの聖化交友会にご加入ください

聖化交友会には教団、教会、個人でお加わりいただけます。聖化の恵みを私たちの心に、そして教会に、さらにお住まいの地域に広げていきましょう。詳細は各地域の聖化交友会にお問い合わせください。

北海道聖化交友会／宮城聖化交友会／山形聖化交友会／栃木聖化交友会／関東聖化交友会／東海聖化交友会／ジョン・ウェスレーに学ぶ会／岡山聖化交友会／四国聖化交友会／九州聖化交友会

編集後記

聖化 60 号をお届けします。昨年は日本聖化協会創立 30 周年を祝いました。講師のジョン・オズワルト博士の説教については、巻頭言で深谷春男先生が書いてくださいました。今年はジョン・ライアン博士をお迎えします。ちょっとヒラリー・クリントンさんを彷彿とさせるエネルギーに溢

じっくりと聖書を学ぶために

マイケル・ロダール著 大頭眞一訳

神の物語

ウエスレアン神学の神髄を解き明かした優れた著作です。物語の神学、自然災害、環境問題、創造科学と進化論、開かれた聖餐、東方神学、共同体としての聖化など、現代と対話しつつ「愛の神学」が展開されていきます。

推薦のことは（藤本満）読み進むうちに、エマオ途上の二人の弟子たちのように、またジョン・ウェスレーの神の物語を聴き、語り、生きるすべてのクリスチャンに、そして神の物語に招かれておられるすべての人からお勧めいたします。

スレーのように、「心がうちに燃える」のを覚えます。神の物語を聴き、語り、生きるすべてのクリスチャンに、そして神の物語に招かれておられるすべての人からお勧めいたします。



定価3500円十税

れた先生です。社会問題を絡めて語ってくださるはず。期待をもってお待ちしております。2017年の講師も紹介されています。レクラー先生です。フロイド・カニンガム博士の妹さんとのことです。2012年の博士の講演も聞き応えのあるすばらしいものでした。来年が楽しみです。（矢木良雄）

聖化 No.60 2016年9月18日発行